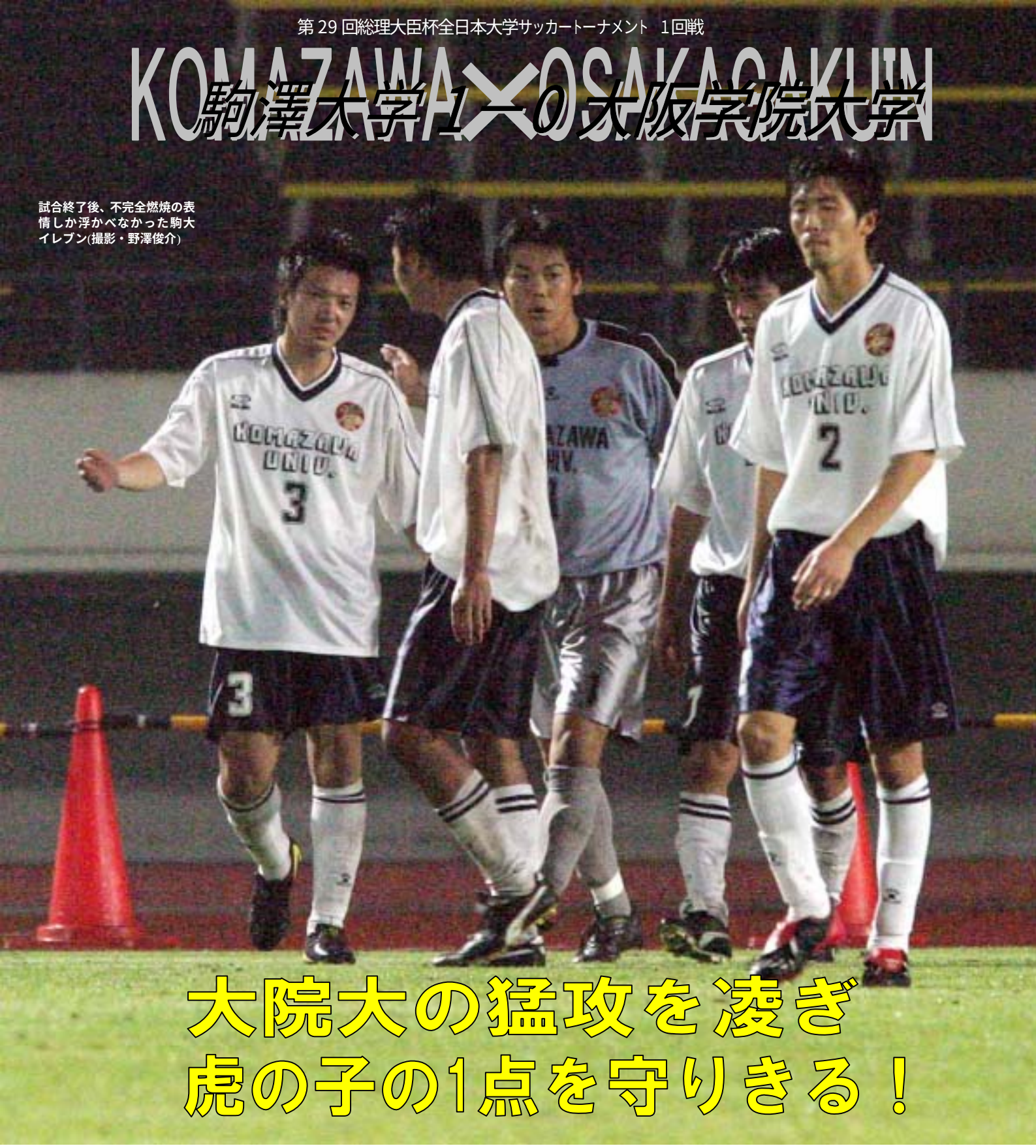
第29回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント　1回戦

KOMAZAWA×OSAKAGAKUIN
駒澤大学1－0大阪学院大学



試合終了後、不完全燃焼の表情しか浮かべなかった駒大イレブン(撮影・野澤俊介)

大院大の猛攻を凌ぎ 虎の子の1点を守りきる！

自ら招いたピンチ

総理大臣杯を3大会連続で優勝し、今大会4連覇を目指す駒大。初戦は小雨が降りピッチがすべる中、大院大と対戦。開始直後から濡れたピッチの影響でミスが目立ち、自らピンチを招いてしまう。大院大はピッチを利用し、ロングボールを主体の攻撃とその後の波状攻撃で駒大ゴールを脅かす。普段の駒大ならば前線からのプレスをかけ、ボールを蹴らせないところだが、「変則的なシステムで対処が出来なかった」と**赤嶺**の言葉から守備面ではうまく機能しなかった。対して攻撃面は21分に赤嶺からのパスを受けた**東平**がループでGK**土屋**の上を超えてゴールを狙う。この攻撃から駒大は序々にリズムを掴んでいき、決定機は作る。しかし、フィニッシュで精度を欠き、前半は両チーム無得点で折り返す。

後半に入っても駒大ペースは変わらないが、51分の**東平**のドリブル突破から得たFK。**宮崎**がペナルティエリア内にフリーで走り込んだ**八角**にクロス。しかし、**八角**に渡る直前に主審に当たるという不運に見舞われる。続く54分、大院大のコーナーキックを**塚本**のクリアボールを**赤嶺**が拾い、ドリブルで左サイドを駆け上がりクロス。**宮崎**が中央に走りこみ、エリア内で倒されPKを得る。それを**赤嶺**がきっちりと決め先制。69分以降は大院大が息を吹き返した。**石櫃**のFKをクリアするが、あわやオウンゴールに。続くコーナーキックでは、**馬場**にフリーでヘディングを許してしまう。ここで駒大は**小椋**を投入しリズムを引き戻そうとするが、守備を意識しすぎてしまい、大院大の押し上げを許してしまうことになる。**秋田監督**は「スペースがあるのに、自分で行かずにボールを下げてしまったのが原因」と話した。ロスタイムにも大院大に怒涛の攻撃を喰らうが、守備陣が踏ん張りを見せギリギリのところ逃げ切った。

この試合の内容は、決して満足できるものではなかった。**廣井**は「ミスや競り合いのポジショニングまで雑になってしまった」。**塚本**は「褒めるところがない」と試合を振り返った。しかし、この大会は勝ち続けることだけが最大の目標であることを忘れてはいけない。

（川崎　篤彦）